

日本初記録のタテジマカワハギ（新称）

松浦啓一¹・須之部友基²

¹169 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館動物研究部

²812 福岡市東区箱崎 九州大学

農学部水産学第二教室

First Record of the Filefish, *Pervagor nigrolineatus*, from Japan

Keiichi Matsuura¹ and Tomoki Sunobe²

¹Department of Zoology, National Science Museum

(Nat. Hist.), 3-23-1 Hyakunin-cho,

Shinjuku-ku, Tokyo 169, Japan

²Fisheries Laboratory, Faculty of Agriculture,

Kyushu University, Hakozaki, Higashi-ku,

Fukuoka 812, Japan

A specimen of the filefish, *Pervagor nigrolineatus*, was collected from dead coral patches at a depth of 3 m in Zamami-jima, Kerama Islands ($26^{\circ}14'N$, $127^{\circ}19'E$). This species is recorded for the first time from Japan. It has been known to be distributed in the tropical western Pacific from the Philippines to New Guinea (Hutchins, 1986). The present specimen is more similar in scale characters to the Philippine specimens than to the New Guinean ones.

ニシキカワハギ属は、カワハギ科に含まれる小形の魚類で、西部太平洋熱帯域のサンゴ礁に生息している (Hutchins, 1986)。本属には 8 種が知られており (Hutchins, 1986), 日本からは 3 種が報告されていた (松浦, 1988)。

沖縄県慶良間列島のサンゴ礁を調査中に、*Pervagor nigrolineatus* をたも網によって採集した。本種の従来の北限はフィリピンであり、日本で採集されたのは初めてなので、以下に報告する。標本の計測方法は Matsuura (1980) に従ったが、体高は Hutchins (1977) によって、臀鰭起部から第 2 背鰭起部までを測定した。本報告に使用した標本は、国立科学博物館動物研究部 (NSMT: Department of Zoology, National Science Museum, Tokyo) に保管されている。

Pervagor nigrolineatus (Herre, 1927)

タテジマカワハギ（新称）

(Fig. 1)

測定標本 NSMT-P 30432, 1 個体、沖縄県慶良間列島座間味島阿護ノ浦 ($26^{\circ}14'N$, $127^{\circ}19'E$) 水深 3 m, 1984 年 11 月 24 日, 27.9 mm SL.

比較標本 NSMT-P 30433, 1 個体, Ulugan Bay, Palawan Island, Philippines, 水深 5 m, 1988 年 11 月 15 日, 38.3 mm SL.

記載 背鰭 2 棘 31 軟条、臀鰭 28 軟条、胸鰭 11 軟条。体長は頭長の 2.7 倍、吻長の 4.5 倍、体高の 2.2 倍、第 1 背鰭棘長の 3.4 倍、吻端から第 1 背鰭起部までの距離の 2.9 倍、吻端から第 2 背鰭起部までの距離の 1.6 倍、臀鰭前長の 1.4 倍、吻端から鞘状鱗後端までの距離の 1.5 倍、第 2 背鰭基底長の 2.9 倍、臀鰭基底長の 2.8 倍、尾鰭長の 3.3 倍。頭長は体幅の 2.1 倍、眼径の 2.3 倍、両眼間隔の 3.3 倍、鰓孔の 7.7 倍、最長背鰭軟条の 3.3 倍、最長臀鰭軟条の 3.1 倍、最長胸鰭軟条の 2.8 倍、尾柄高の 2.1 倍、尾柄長の 2.9 倍。

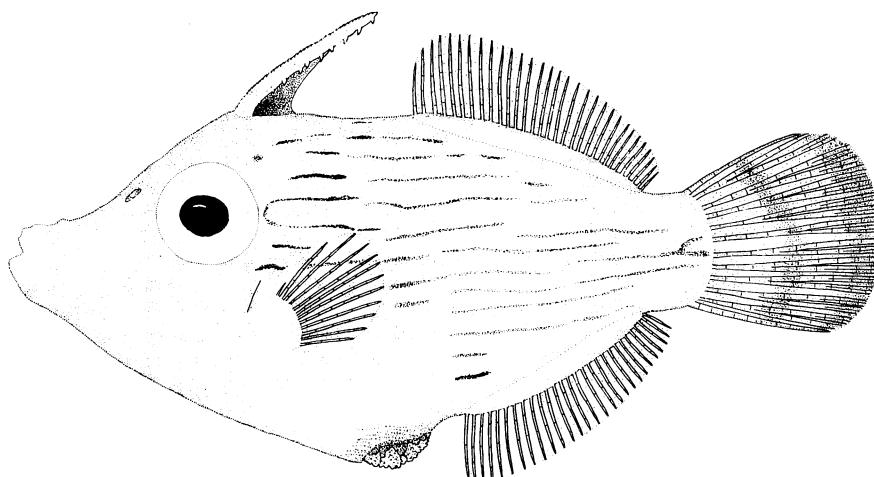


Fig. 1. *Pervagor nigrolineatus*, NSMT-P 30432, 27.9 mm SL, Kerama Islands. Drawing by K. Matsuura.

体はやや延長し、強く側扁する。吻の背縁はややへこむ。口は前端に位置し、上顎歯は2列に並び、外側に6本、内側に4本ある。外列歯は先端が尖り、外列歯の間から見える前方の内列歯の先端も尖る。下顎には6本の尖った歯が1列に並ぶ。鰓孔は小さく、眼の後部下方に位置し、やや前方へ傾く。背鰭第1棘は眼の上方にあり、前面に上方を向いた小棘が4-5列ある。背鰭第1棘の後側縁に、前面の小棘よりかなり大きな、下方を向いた棘が9本ある。背鰭第2棘は微小で、皮下に隠れている。第1背鰭後方の体背面に浅い溝がある。第2背鰭は縁辺が円く、前部は後部より高い。臀鰭起部は第2背鰭起部のやや後方にある。臀鰭の縁辺は円く、前部は後部よりやや高い。胸鰭は小さく、円い。腹鰭の鞘状鱗は3節からなり、後端は背腹方向に可動である。腹部膜状部は小さく、鞘状鱗の背面に幅広く付着する。尾鰭は円い。尾柄は高くて、短い。鱗の表面に小棘が密布し、体の表面は粗雑。

体は淡灰色で、薄い緑味を帯び、腹部は白味を帯びる。眼の後方から尾柄にかけて、多数の黒色縦線が走る。眼の前下方から後に向かって、1白色縦線が体中央部へと走る。背鰭第1棘は淡灰色。第2背鰭、臀鰭、胸鰭は淡色。尾鰭は淡灰色で、2本の暗色横帶がある。

備考 本種は、腹部膜状部が腹鰭後端の鞘状鱗に幅広く付着し、雄の背鰭第2-4軟条が延長し、体側に多数の黒色縦線が走ることによって、ニシキカワハギ属の他種から識別される (Hutchins, 1986)。慶良間列島から採集された標本では、背鰭軟条の延長は見られなかつたが、腹部膜状部は鞘状鱗に幅広く付着し、体側に黒色縦線があるので、本標本は *Pervagor nigrolineatus* と査定される。背鰭軟条が延長しないのは、本標本が雌であることを示唆するが、標本が小形で若魚だったので、性別の決定はできなかつた。

一方、比較に用いたフィリピン産の標本では、腹部膜状部はかなり前方へ切れ込み、鞘状鱗の可動部の中央に

付着していた。したがつて、本種の腹部膜状部と鞘状鱗の付着関係は、種を区別するのに有効ではあるが、変異を示すので注意して観察する必要がある。

本種は地理的変異をかなり示し、鰭条数や鱗の大きさ、鱗の小棘の長さもフィリピンとニューギニアの標本では異なる (Hutchins, 1986)。慶良間列島から採集された標本は、鱗の形質がフィリピン産の標本に類似している。本種はサンゴ礁に生息するが、トロールによって採集されることもある (Hutchins, 1986)。本報告に用いた標本は、死サンゴ礫が堆積した内湾で採集された。本種の従来の分布域はフィリピン、ベトナム、パラオ諸島、インドネシア、ニューギニアおよびオーストラリア北西部であった。

謝 詞

沖縄県八重山支庁の島田和彦氏には標本の採集に協力して頂いた。本研究は文部省科学研究費補助金海外学術研究（課題番号 63041127）の援助を受けた。記して謝意を表する。

引 用 文 献

- Hutchins, J. B. 1977. Descriptions of three new genera and eight new species of monacanthid fishes from Australia. Rec. West. Austr. Mus., 5(1): 3-58.
- Hutchins, J. B. 1986. Review of the monacanthid fish genus *Pervagor*, with descriptions of two new species. Indo-Pacif. Fish., (12), 35pp., 2 pls.
- Matsuura, K. 1980. A revision of Japanese balistoid fishes. I. Family Balistidae. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (A), 6(1): 27-69.
- 松浦啓一. 1988. フグ目. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑, 和文解説及び図版, pp. 342-352, 458, pls. 321-334, 370. 東海大学出版会, 東京.

(Received May 27, 1989; accepted February 2, 1990)